今後の検討事項

1 次年度のモデル調査実施に向けた検討事項

1.1 急峻地形地での搬出方法について

梶地区の松ヶ下海岸(図 1.1-1)では、急峻地形のため大きな流木や大量のゴミの搬出方法が課題となっている。全面に岩礁地帯があり、小型船舶を接岸させることは困難であるが、さらに小型の平底の船を艀のように利用して、漂着ゴミを搬出できないか検討中である。図 1.1-2は熊本県のモデル地域の一つである天草郡苓北町富岡海岸での搬出風景であり、岸と中継船の間をアルミボートを往復させてゴミを搬出している。このような手法を用いて松ヶ下海岸でもゴミの搬出ができないか、さらに検討を進める予定である。

図 1.1-1　梶地区、松ヶ下の海岸

図 1.1-2　熊本県富岡海岸での漂着ゴミの搬出風景

1.2 発泡スチロール片の回収方法について

礫の間には数センチのプラスチック片や発泡スチロール片が多数入り込んでおり、回収に手間と時間がかかる。また、これらの破片は風に飛ばされ崖下にたまっていることが多く(図1.2-1)、落石の危険がある崖下で長時間作業をすることは安全上好ましくない。そこで、礫浜に散乱するプラスチックの破片等を効率よく回収するための手法(ハンドクリーナー等)について検討を行った。

その結果、交換可能な充電池式のハンドクリーナーが市販されていることがわかったため、次回以降の調査で実地のテストを行う予定である。

図 1.2-1　プラスチック片や発泡スチロール片の回収作業(米ヶ脇地区)

1.3 堆積ゴミの回収方法について

今津川河口(調査範囲東側：梶地区)の一部では、発泡スチロール片と木ぎれ・芦切れが混在し、層を成している。この混合物の回収方法について重機の利用も含めて検討を行った。その結果、仮に重機で混合物を掘り起こしたとしても、最終的には人手で分類・袋詰めする必要がある。そのため、今のところ人力で回収する方向で検討を進めている。

図 1.3-1　岩脇の堆積ゴミ(梶地区)

2 モデル調査終了後の継続的な海岸清掃体制等の検討事項

本地域でのモデル調査は次年度で終了となるが、今後も継続的に海岸清掃を行っていくためには、海岸管理者である地方公共団体および市町が地域住民等の関係者と連携して海岸清掃を進めていくことが重要である。このため、本地域での体制・枠組作りや、効率的・効果的な漂流・漂着ゴミの回収・処理方法について検討する。

また、本地域では自治会・漁協を中心に年数回の清掃が長年続けられており、本年度からは福井県と国土交通省で「九頭竜川流域文化交流について」と題したテーブルを設けて、ごみ問題も含めた九頭竜川の流域としての活動のあり方を検討している。これらの状況を踏まえながら今後の清掃体制等について検討を進める。